

友 友 FRIEND OF SPORTS

札幌市スポーツ推進委員会広報誌「友穆」Vol. 128

友穆（ゆうぼく）～「仲の良い友」の意

題字 | 友穆第一号発行時会長 宮崎兼光 書

- ・特集 マラソン
- ・活動紹介 厚別区

表紙：札幌マラソン河川敷の様子

提供：読売新聞社

友穆 No.128 マラソン特集

今回の「友穆」で取り上げるのは、「マラソン」です。マラソンは、古代ギリシアの故事に由来して1896年アテネでの第1回近代オリンピックの創設に伴い陸上の新種目とされたことから始まりました。2021年の東京五輪では札幌を舞台に熱戦が繰り広げられたのも記憶に新しいと思いますが、最近のマラソンは42.195kmのフルマラソンやサロマ湖100kmウルトラマラソンといった上級者向けの大会だけではなく、札幌マラソンのようにハーフマラソンや5km車いすマラソン、だれでも1kmなど多様な参加者に対応する大会が増えており、体一つで気軽に参加することができるのもマラソンの魅力の一つです。

スポーツ推進委員としての一大イベントである札幌マラソンは来年50回の節目を迎えます。50回の節目を前に、マラソンの魅力を再発見してみるのはいかがでしょうか。

札幌マラソン新たな挑戦

10月6日（日）晴天の下、北日本最大規模の市民ロードレース「第49回札幌マラソン」が開催され、今年も1万人を超えるランナーが爽やかな汗を流しました。今回は、札幌マラソン初の試みとして、今大会から新しく導入された2つのことについて説明します。

札幌プロギングプロジェクト

プロギング（plogging）はジョギングしながらゴミを拾う新しいフィットネスです。スウェーデン語の『plocka upp（拾う）』と英語の『jogging（走る）』を合わせた造語で、スウェーデン人アスリートのエリック・アルストロム氏（Erik Ahlström）が自己ベストではなく、ゴミ拾いに専念したランニングとして2016年に始めました。その活動は瞬く間に世界中に広がり、今や世界100ヶ国以上で楽しまれ一大ブームとなっています。札幌マラソン初の試みとして、プロギングランナーもコース上を走りました。

RecycRun～Re:cycle×Run～

サステナブルな大会を目指して、札幌の豊かな自然を守ること、今後も継続的に大会を開催していけるよう、ひとり1人が考えるキッカケとなる場として、道内のマラソン大会で初めて「マイボトル・マイカップラン」を採用しました。ハーフマラソンと10km種目を対象に、ビブスと一緒に参加賞として配布された、マイボトル（ハーフ参加者のみ）とマイカップを活用した、セルフ形式（ジャグ）での給水方法です。紙資源の節約・ゴミの削減、みんなが気持ちよい大会にしたい、自分たちにできることからという目的の、新しいマラソン大会への挑戦となりました。



「©THE YOMIURI SHIMBUN」

札幌マラソンで業務・取材を行いました

＜ファンペア 3km 参加の清野さん親子に取材してみました＞

文責：南区山岸委員

父親の翔太さんは、昨年の5月からマラソンを始め、ハーフマラソン挑戦のため体重を 10kg 以上減らして臨み見事完走しました。今年で2回目のファンペア 3km は、ハーフマラソンの約1時間後のため大変そうでしたが、なんと昨年よりも速いタイムでこちらも無事に完走しました。普段水泳とパークールをしているお子様の和志さんは、マラソンが好きで今回もお父さんと一緒に走るのを楽しみにしていたようです。親子が一緒になって気軽に楽しめるマラソンはとても良いスポーツだと感じました。



清野さん親子

＜スポーツ推進委員の業務や当日の様子＞ 文責：南区山岸委員

南区スポーツ推進委員は、午前中真駒内競技場付近の走路監視を行い、10km とハーフマラソンを走る元気なランナーを見守りました。他の区の方は、準備しているランナーの補助や景品の受け渡しなどの業務を行っておりました。

今年は昨年より 1,722 人多い 13,184 人がエントリーしており、午後から観客席へ移動してみると、完走された方や午後から走る学生の方々、それを応援する人たちで賑わっておりました。



南区スポーツ推進委員



景品引き渡しの様子



観客席から見たゴール地点

＜業務・取材を終えて＞

文責：白石区長島委員

朝早くからスタート地点に集まったランナーたちが、それぞれの思いを胸に観客の応援を背にして札幌の街を駆け抜ける姿に感動しました。ボランティアの方々や応援団の温かいサポートも印象的で、札幌マラソンの地域との結びつきの強さを改めて感じました。来年もまた、たくさんのランナーたちがこの札幌の地でチャレンジする姿を見守り、誰もが気持ちよく参加できる持続可能な大会の一助になればと思います。



THE YOMIURI SHIMBUN



厚別区スポーツ推進委員会の活動紹介

厚別区では、例年「スポーツチャレンジ(通称 スポチャレ)」と「少年少女ドッジボール大会」を主催事業として開催し、どちらも参加者からは「とても楽しかった♪」と毎回嬉しい声をいただいています。また、毎月第2月曜日には定例会を開催し、各委員の報告のほか、主催行事の企画運営に関する詳細な検討や、実施後は次に活かすための反省を行うなど、コミュニケーションをとりながら楽しく活動しています。

令和6年度は、厚別区マスコットキャラクター「ピカッくん」を背中にプリントした推進委員のユニフォームを新調！気持ちも新たに取り組んでま〜す！

厚別区スポーツ推進委員の新調ユニ⇒
(2024.10 札幌マラソンでのコース監視)



〈 主 催 イ ベ ン ト 〉



2024.2 ドッジボール大会



2024.10 スポチャレ(フロアカーリング)



2024.10 スポチャレ(ボッチャ)

♪ スポーツ推進委員ワンショット ♪



令和6年度・第32期がスタートしました。
今期はメンバーが4人入れ替わりましたが、
紺谷会長をはじめ、新旧仲良く、そして楽しく
やってます！

←写真は第32期メンバー



各区のスポーツ情報が満載

札幌市スポーツ部ホームページ [<https://www.city.sapporo.jp/sports>]

札幌市スポーツ推進委員会ホームページ [<http://www.sapporo-sposhin.jp>]

編集後記: 札幌マラソンは、スポーツ推進委員が関わる活動の中でもとても大きなイベントです。マイボトル・マイカップランの導入など、環境にも優しいイベントに携わり、私も充実した時間を過ごすことができました。札幌マラソンは来年50回という節目の大会になります。魅力ある大会に出来るよう引き続きご協力よろしくお願いします。(事務局井上)

編集 友穆編集委員会 発行年月日 令和7年2月12日

発行 札幌市スポーツ推進委員会(札幌市スポーツ局スポーツ部企画事業課内)

電話 211-3044 発行責任者 会長 紺谷 好範